

母はなぜ、何人もの男を愛したのか



# 赤い月

1945年 満州——全てが逆転した大陸の果て  
烈しくも美しく、愛を生き抜いた女の真実の物語

降旗康男監督作品 原作なかにし礼 [赤い月] (原案誌刊)

常盤貴子 伊勢谷友介 香川照之 布袋寅泰

山本太郎 反田孝幸 笠江一平 山中聡 斎藤千晃 (子役) 佐藤勇輝 (子役) エレナ・ザハロワ ヴァレリー・ド・ルジツコフ 大杉 進  
製作 富山省吾 製作統括 島谷衛成 平井文宏 森 隆一 高原建二 石黒 勇 古澤文明 細野義朗  
プロデューサー 史杰 (中国電影集團公司第二製片分公司) 山田健一 脚本 井上由美子 降旗康男 撮影者 木村大作  
音楽 朝川朋之 美術 福澤勲広 録音 紅谷信一 照明 渡辺三雄 編集 川島章正 洗音 若松孝市 キャスティング 城戸史明 助監督 宮村敏正 製作担当者 金澤清美  
制作協力 中国電影集團公司 中国電影製作片公司 中国電影集團公司第二製片分公司 中国電影集團公司 中国電影集團公司第二製片分公司  
制作協力 中国電影集團公司 中国電影製作片公司 中国電影集團公司第二製片分公司 中国電影集團公司 中国電影集團公司第二製片分公司  
「赤い月」製作委員会 (東宝 日本テレビ 電通 読売テレビ 読売新聞社 日本出版販売 SDP) 製作 東宝映画 配給 東宝

www.akaitsuki.jp

200903-202 ©2004「赤い月」製作委員会





# 烈しくも美しく愛を生き抜いたひとりの女——波子

かつてない壮大なスケールで贈る、感動の一大叙事詩

## 「この映画こそ、私が今日まで生きてきた証だ」 ——なかにし礼——

直木賞作家・なかにし礼の実際の体験を下に、激動の時代を生き抜いた彼の母親の姿を描いた小説「赤い月」。2001年5月に刊行されるや、各方面から絶賛を浴び20万部を超えるベストセラーになった。「この小説を書く為に生きてきた」と断言するほど原作者の強い思いが込められた真実の物語である。戦渦の中、強じんな意思力で愛に生き、子供を守り抜いた1人の女性・波子。彼女の波瀾の半生を描いたこの渾身の書は読者に圧倒的な迫力で迫ってくる。「今回の小説を書いて、ほくはついに小説家になれたんだと思う。このテーマこそがほくの書きたかったことだったのです」

## 主人公・波子に常盤貴子。そして、彼女を巡る3人の男たち。

人生の果実をすべて手に入れようとする女・波子。時代に先駆けて自立を目指した女性であるとともに、全身全霊で子供達を、そして愛する男を守り抜く型破りな女性。この主人公を演じるのは映画・ドラマ・CMなど幅広い分野で活躍を続ける常盤貴子。「気絶しそうになるほど感動した」と述べるほど原作に惚れ込んだ彼女が、並々ならぬ決意で21世紀の新しいヒロイン像に挑む。波子をめぐる3人の男には課報員・水室啓介役にモデル出身の俳優であり、「カク」(03年)で監督デビューを果たした伊勢谷友介。波子の夫・森田勇太郎役に2000年のカンヌ映画祭グランプリを受賞した「鬼が来た!」で全世界から絶賛を浴びた香川照之。そして、波子の初恋の相手である大日本帝国陸軍中佐・大杉寛治役には日本ロック史に偉大な足跡を残し続けるアーティストであり、「SF(サムライフィクション)」(00年)で衝撃的な俳優デビューを果たした布袋寅泰が扮する。

苛烈なまでの個性を発し続けるこの3人の男たちが主人公・波子の壮絶なまでの人生を激しく、そして美しく彩る。



## 名匠・降旗康男——日本映画最強のスタッフが挑む感動大作

「赤い月」のメガホンを取るのは「鉄道員(ぽっぽや)」(99年)、「ホテル」(01年)で幅広い観客層から絶大な支持を得た、日本映画が誇る名匠・降旗康男。撮影監督には「駅 STATION」(81年)以来数々の名作を降旗監督とのコンビで撮り続けてきた木村大作。脚本は「北条時宗」(NHK)、「GOOD LUCK!!」(TBS)などで知られる井上由美子が降旗監督とともに手掛ける。激動の時代を生きぬいた一人の女性の強じんな生命力と圧倒的な愛を、繊細な演出と壮大な映像でドラマティックな感動大作に仕上げる。

第2次世界大戦終末期の満州が舞台となる本作では、日本映画史上初となる中国東北部でのロケーション撮影を敢行。但し、03年2月の終了後、5月から予定されていた夏季撮影はアジアを中心に猛威をふるった「SARS」の影響により中止に追い込まれた。しかし、日・中のスタッフ・キャスト全員の再開への執念が実り、さきのWHOによる「SARS」終息宣言を受けて、9月から中国での撮影が再び開始されることになった。

1945年8月、満州にソ連軍の侵攻が始まった。

11年前、森田波子は夫・勇太郎と共に小樽から満州・牡丹江<sup>ぼたんこう</sup>に渡り、「森田酒造」を満州有数の造り酒屋に育て上げ、栄華を極めていた。3人の子供を持ちながらも波子は、かつての恋人である軍人・大杉に再会すると胸をときめかせ、関東軍秘密情報機関の課報員・水室に密かに想いを寄せる、自分の意志のままに生きる女だった。しかしその栄光の日々は、永くは続かなかった。勇太郎の留守中、ソ連軍が満州に攻め込み森田酒造は崩壊。波子は2人の子供を抱え、軍用列車にもぐりこむと、夫の行く先である哈爾濱<sup>ハルビン</sup>へ向かう。命からがら辿り着いた波子はそこで日本の敗戦を知る。夫との再会に喜んだのも束の間、勇太郎は波子の元を去る。そして、落胆する波子の前に現れたのは、阿片で全身を蝕まれた水室だった…。



2004年2月7日(土)全国東宝系ロードショー